伝統文化の調査、研究

藤田秀司（ふじたひでじ）

（81歳）

住所

仙北郡中仙町

昭和25年から地元の役場職員として、また同39年から51年までは秋田県教育庁職員として勤務し、一貫して社会教育に携わった。その間、戦後急速に失われつつあった年中行事や伝統文化の調査、研究を進め、その保存、伝承に努めた。

定年退職後は、優れた著作物を発表し、とりわけ「餅」（民族選書）、「聞き書き秋田の食事」（共著・農村文化協会）は、全国的に高い評価を得ている。

他方、秋田県教育委員会が行った各種文化財調査を指導し、「秋田県の民謡」、「秋田県の諸職」等の報告書作成に力を発揮したほか、昭和63年から4年間は秋田県文化財保護委員を務め、県の文化財保護行政の推進に尽力した。

また、昭和56年には菅江真澄研究会の設立に参画し、平成元年に同会会長に就任する一方、平成4年から現在まで県文化財保護協会の副会長として、本県の歴史研究と文化財保護に多大な貢献をしている。

能楽、謡曲の振興

宮腰六三（みやこしろくぞう）

（79歳）

住所

能代市

昭和29年に喜多流に入門し、同43年に謡教士となり、同60年には喜多流宗家より謡教授を免許された。

昭和54年に能代喜多流謡曲雨滴会の第七代会長に就任し、会員50人の指導にあたる傍ら、能代老人クラブの謡曲指導にも尽力するなど、能代市の謡曲の振興に尽力している。

昭和57年には秋田県喜多流謡曲連盟の創立に参画して理事長に就任し、県内の能楽の振興に尽くすとともに、県内の観世流と宝生流にも呼びかけ、地方都市では難しいとされる定期演能大会を、同年から平成元年までの8年間にわたり開催し、中央の能楽師の優れた能催事を県民に鑑賞させる機会を提供した。

また、能代中和第三自治会会長、能代ライオンズクラブ会長、能代木材産業連合会理事などを歴任して、町内の融和、献血活動、木材業界の近代化にも尽力した。

郷土医療史の研究

石田秀一（いしだ ひでかず）

（78歳）

住所

秋田市

昭和28年に秋田市で内科医院を開業し、地域医療に貢献する傍ら、県内の医史に興味を覚えて資料の発掘と収集に努め、秋田医報（秋田県医師会発行）並びに秋田市医師会報に、県内の医史に関する事項を長年にわたり体系的に掲載し続けている。

昭和51年から59年にかけて秋田医報に掲載した医史に、日本医事新報や秋田魁新報に掲載された数編を加え、平成5年に「秋田の医史覚書」を自費出版したのを始め、平成6年から7年にかけて秋田魁新報に連載した「秋田魁新報を読む」に加筆し、平成8年に「秋田魁新報に見る大正時代の医界」を自費出版した。

また、日本医師会で発行した全国の「医界風土記」の秋田県分について執筆するなど、長年にわたり、これまで研究者のいなかった郷土医療史の研究と編纂に努め、秋田県医史研究の指導的役割を果たしている。

農業の振興

佐藤秀一（さとう しゅういち）

（75歳）

住所

由利郡矢島町

昭和59年に県ＪＡ五連会長となって以来、強力なリーダーシップを発揮して、「あきたこまち」の銘柄確立に尽力するなど、農業の振興と広域ＪＡ合併の推進等による農協の発展に大きく貢献している。

特に、キャンペーンの陣頭指揮をとったり、本県出身の漫画家矢口高雄氏のマンガ本「あきたこまち物語」を作成して配布するなど、多様で斬新なＰＲ活動を展開し、米のイメージ戦略の先鞭をつけたとして全国的に高い評価を得ている。

また、平成3年に牛肉の輸入が自由化されたことに鑑み、品質の高い秋田牛の生産に向けた優良種雄牛を確保する必要性を強く認識し、全国和牛能力共進会で優等賞となった種雄牛を県に寄贈するなど、和牛の改良に大きく貢献した。

更に、昭和50年から4年間は矢島町議会議員を、同54年から3期12年間は県議会議員を務め、県総合開発審議会、県森林審議会、県特別職報酬等審議会の各委員会を歴任するなど行政に参画し、県勢の発展に多大な貢献をした。

スポーツの振興

佐藤祐一（さとう ゆういち）

（73歳）

住所

秋田市

昭和23年から19年間高等学校教育に携わり、特に大館桂高校において授業にスキーを取り入れて雪国の冬季体育の先駆者としての役割を果たすなど、学校体育の発展に大きく貢献した。

また、昭和54年からは秋田市立城東中学校校長として、ＰＴＡ、教育後援会、運動部後援会等の組織づくりによる学校支援体制を確立し、保護者や地域社会の絶大な信頼を得て、同57年には全国中学校体操競技大会で新体操部が準優勝し、中学校軟式野球大会においては秋田県初の全国優勝を成し遂げたほか、同58年には陸上競技、サッカー、バレーボールの各部門において全県優勝するなど、数々の輝かしい実績をあげた。

一方、昭和56年からは県・市の中学校体育連盟会長として、組織強化に力を注ぎ、今日の中学校体育連盟の基盤をつくりあげた。

更に、秋田市立美術工芸専門学校校長や秋田県高齢者介護支援協会会長を務め、専修学校の充実や高齢化社会における福祉活動の普及にも努めた。

酒造業の発展

小　玉　順一郎（こだま　じゅんいちろう）

（71歳）

住所

南秋田郡飯田川町

昭和25年、大学を卒業と同時に酒造業に従事し、合名会社から株式会社に組織変更を行うなど幾多の経営合理化を図り、本県有数の清酒製造会社に成長させるとともに、銘酒「太平山」の名を全国に轟かせ、東北清酒品評会や全国清酒品評会において、毎年のように入賞するなど、「酒の国秋田」の威厳を高めていることが大きく評価されている。

また、昭和53年に秋田県酒造組合副会長、同59年からは同会長として本県酒造業の発展のため指導力を発揮するとともに、同44年には日本酒造組合中央会評議員、同62年には同中央会理事及び東北支部長、平成2年からは同中央会副会長として、我が国酒造業全体の健全な発展にも多大な貢献をしている。

この間、本県酒造業界の体質強化に取り組むとともに、消費者ニーズの多様化をいち早く予見して、バイオ技術による清酒酵母や酒造好適米の品種開発研究に取り組み、各組合員の吟醸酒を統一銘柄「秋田旬吟醸」として販売することを提唱して大好評を博すなど、その功績は大きいものがある。